



## 遊学舎武雄こども園 園だより

2025(令和7)年2月号

### 「174のころ」

先日、武雄こども園民営化10周年記念子育て講演に、汐見稔幸先生、和恵先生ご夫妻をお招きしてご講演がありました。そこにわたしの娘(次女)夫婦も参加しておりました。

汐見先生のご講演を聴き終わると、わたしすぐに娘の元へ行き「ごめんね。お母さんの子育て、怒ってばかり、急がせてばかりだったね。もっと、ゆっくり手をつないで散歩して、ゆっくり話も聞いてあげればよかった。ギュッってさせて。」と伝え、何十年ぶりでしょうか、27歳になる娘に抱きつきました。娘は「やめてよ～」と笑いながら言いました。

その後、娘からは「子育てって深くて難しいね。子どもたちって小さいながら、ちゃんと考えているんだね。ゆっくり丁寧に寄り添って、声をかけていけるように頑張るね。考える力を信じて、答えを先に出さずに、待つのが大事だね。いつの日か離れていってしまう日がくるのかな。それまで、たくさん抱っこして手をつないで過ごしていくね。お母さんありがとう。」とLINEが来ました。

我が子と手をつながなくなったのはいつだろう？広げれば飛び込んでくれたこの腕は、いつの間にかいらなくなりました。子育て中、毎日毎日「ママ～、ママ～」と連呼される日々は、1人の時間がほしいと思っていましたし、忙しくて、全身で「大好き」って伝えてくれていたなんて気づけなかった。

講演会を聴いて思いました。お互いの時間を巻き戻し、27歳、29歳の二人の娘との親子の時間を一緒に笑い、感動し、ワクワクしながら過ごしていこうと思います。

「あなたらしくそれでいい」「わたしらしくそれでいい」

さくらぐみさんと過ごせる残り一ヵ月！信じて認めて毎日手をつなぎ、抱きしめてゆっくりと、日々を大切に過ごしていこうと思います。





指で作れる「3」のいろいろな形を探すと、みんな「3はこうするんだよ!」と言う子は一人もおらず、どんな形の「3」でも言えぬ、わずか3歳の子どものやりとりで驚かされました! 「これもいいね」「あれもいいね」と、自然に多量さを言えぬ合言葉。まさに、皆が幸せに生きていくために大切なことを教え込んでいるような、なんと素晴らしい風景でした。

【民営化10周年記念によせて】

今年度は武雄こども園が公立から民営化され、10年目となります。

この10年を振り返ると、様々な歴史と物語がありました。

私はもともと四国の出身で、お盆やお正月に四国へ帰省することがあるのですが、2年ほど前のお正月に四国から武雄へ戻ってくる途中、何とも言えない虚しさに襲われました。主人や実家族がいない土地に引き返していることへの矛盾に、瀬戸大橋の上を通る電車のなかで涙が止まらなくなりました。そんな時、携帯電話で（リアルタイムで見られる設定にしているのです）遠く離れた武雄こども園の様子を見ました。そこには、いつもの園トレーナーを着た職員が、何とも楽しそうに子どもたちと遊んでいる様子が映っていました。それを見た瞬間、泣いている場合じゃない、とはっとさせられたのです。

翌日、園に来た私は年始の職員会で「見たことのない景色を、一緒に見たい」と話しました。例えるなら、映画のアラジンで魔法のじゅうたんに乗ったアラジンとジャスミンが、厚い雲に向かって飛び立ち、厚い雲を抜けた時の言葉にならない美しい景色。そんな景色を、私は園に関わる人全員と共に見に行きたい、と。そして心のなかで、私はそのために、武雄に戻ってこよう、と誓いました。

10年の時を経て、今、武雄こども園にはそんな景色が広がっています。ここまで共に在ってくださった子どもたち、保護者様、職員に心から感謝いたします。

福祉や保育の仕事は心で行う仕事です。それは、子育ても同じだと思います。人に寄り添う仕事そのもの自体が尊く、他には代えがたい喜びをつくりだします。しかし、一方でそこにはこうしたこうなる、という決まった答えはありません。時には、とんでもない孤独が押し寄せることもあります。周りがキラキラして見えるとき。自分の不完全さがイヤになるとき。

しかし、不完全だからこそ、美しいのです。欠けているからこそ、愛おしいのです。

武雄こども園の10年間も、決して完璧ではありませんでしたし、これからもどこか欠けながら進んでいくと思います。しかし、それでいいと私は思います。それよりも大切なことは、一人じゃないよ、と言ってくれる人の存在。周りがどれだけ変わっても、あなたのままでいいよ、と自分自身でいられることを保障し続けていくこと。自分の大好きな事を夢中になって楽しみ、その力を伸ばしてあげられること。共に悩み、共に笑い合える人がいつもすぐ傍に居ること。そんな日々が、ふと気づいたら翼となり、根っことなり、その人が存在する証となるのではないのでしょうか。

私たち武雄こども園は、これからも大人も子どももそのままの姿を、温かな温度と共に包みこみ、その人だけの輝きを見つけ続けて参ります。そしてそれこそが、私たちの理念、The One（園に関わる全ての人と事象が唯一無二）の実現に繋がると信じています。